■ プログラム／1色：ブラック　用紙：色上質 厚口（やまぶき）

最終回にあたってのメッセージ

アジア、中近東、アフリカ、南北アメリカ、ヨーロッパ……
世界各地のさまざまな音楽を紹介してきたミュージック・ジャンクションですが、
今回をもって終了させていただくことになりました。
長年にわたるご支援とご理解に心から感謝いたします。
世界各地にはミュージック・ジャンクションで紹介できなかった音楽がまだまだたくさんあります。
とりあげて紹介した音楽も日々生まれ変わり続けています。
音楽はいつの時代も国籍や民族や宗教のちがいを越えて広がってきました。
音楽を楽しむ旅にビザやパスポートはいりません。
これからも世界のさまざまな音楽とのよい出会いがありますように、
そして音楽の素晴らしい旅が続きますように。

監　修：北中 正和 & kitanaka lab

音楽評論家。音楽雑誌の編集者を経て、新聞、雑誌、放送などで世界各地のポピュラー音楽を紹介している。著書に「毎日ワールド・ミュージック」「Jポップを創ったアルバム69」「にほんのうた」「ロック スーパースターの軌跡」「ギターは日本の歌をどう変えたか」など、共編著に「世界は音楽でできている」「事典 世界音楽の本」など。ミュージック・ペンクラブ・ジャパン会員、東京音楽大学非常勤講師。音楽を中心にしたウェブサイトWABISABILANDを主宰。
公式ホームページ：http://homepage3.nifty.com/～wabisabiland/

■一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）

CDやDVDに記されたJASRACのマークを目にしたことはありませんか。JASRACとは“Japanese Society for Rights of Authors,Composers and Publishers”の略称で、日本音楽著作権協会のこと。国内の作詞家、作曲家、音楽出版社など音楽の著作権者から管理委託を受けるとともに、海外の著作権管理団体と契約を結び、日本だけでなく世界の音楽の著作権を管理しています。CDなどのJASRACは、JASRACの管理作品の録音を、JASRACが許諾したことを示すものです。

JASRACの本部は東京にあり、録音・出版・ビデオグラム・映画・放送・有線放送・インターネットなどさまざまな形で利用される音楽の許諾手続きの窓口を設けています。また全国に16の支部があり、演奏会、飲食店などでのカラオケや生演奏、BGM、フィットネスクラブやカルチャーセンターでの演奏、カラオケボックス、歌謡教室などの手続きに対応しています。

JASRACでは、このような音楽著作権管理業務に加え、著作権思想の普及、音楽文化振興のための事業も展開しています。

昭和14年の設立から75余年。JASRACは、音楽著作権を管理してきた長い歴史と実績をふまえながら、デジタル化・ネットワーク化が進む時代の適正な著作権処理のルールづくりにも積極的に取り組み、さらに各種事業を通じて、よりいっそう社会に貢献することをめざしていきます。

■ニコニコ生放送「THE JASRAC SHOW!」

「THE JASRAC SHOW!」は、ニコニコ生放送を活用してJASRACや著作権に関する情報を提供するとともに、JASRACの会員・信託者をゲストに迎えて音楽の創作に関する話題などを紹介するライブ配信番組です。2012年11月から毎月1回、JASRACの本部に隣接する喫茶スペース「リブレ」から配信を行っています。

次回、1月31日（火）のゲストは、作・編曲家の周防義和さんです。

番組URL：http://live.nicovideo.jp/watch/lv285867950

JASRAC
http://www.jasrac.or.jp

最終回

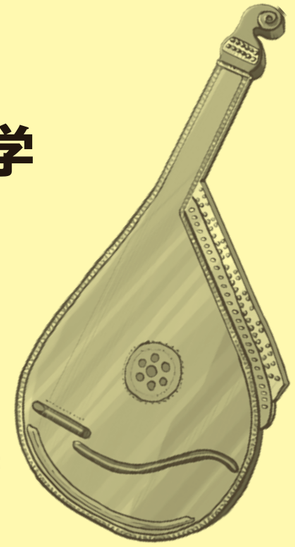
JASRAC

JASRAC講座
ミュージック・ジャンクション

世界を旅する音楽

世界には、さまざまな音楽が息づいています。
生まれたところで成熟していく音楽。外にはじけて広がっていく音楽。遠くの文化と出会って、融合していく音楽…。
それぞれのあり方で刻々と育ち、変わり続けている数えきれないほどの音楽たち。
JASRAC講座ミュージック・ジャンクションが提案するのは、そんな広大な音楽世界への小旅行です。
毎回、世界各地の文化に根ざした音楽を取り上げ、その道に精通した方々の演奏とトークで皆さまと分かち合います。
世界の多様な音楽にふれ、海の向こうの人々の暮らしや風土に思いを馳せ、
想像力をふくらませる旅へ一緒に出かけましょう。

吟遊詩人の旅
ウクライナの音楽と文学



日時　**2017年1月27日（金）**
18：30～20：30

出演　**ナターシャ・グジー**（歌手・バンドゥーラ奏者）
沼野 充義（東京大学大学院教授）

会場　**けやきホール**（東京都渋谷区上原3-6-12）

主催　一般社団法人 **日本音楽著作権協会（JASRAC）**

監修　**北中 正和 & kitanaka lab**

司会　**佐野 啓子**

内容・出演者及び終了時間は変更する場合があります。この公開講座は、音楽文化の振興を目的として開催いたします。
本日の模様は「ニコニコ生放送」でライブ配信させていただきます。あらかじめご承知おきください。
ニコニコ生放送URL：http://live.nicovideo.jp/watch/lv284884358

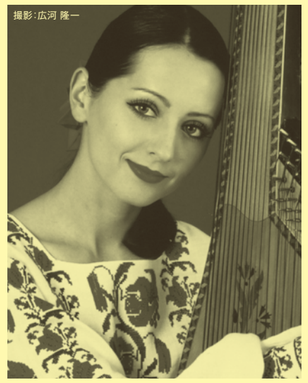
吟遊詩人の旅 ウクライナの音楽と文学

かつてひとまとめに旧ソ連の一部とされていたウクライナは、ロシアよりずっと古い歴史と伝統を持ち、プロコフィエフをはじめ数多くの音楽家を生んできました。今回のミュージック・ジャンクションは、吟遊詩人が伝えた楽器バンドゥーラの繊細な響き、ナターシャ・グジーさんの澄み切った歌声、沼野充義さんのお話などを通して、ウクライナの音楽と、それと結びつきの深い詩や文学的風土にスポットライトを当ててお送りします。

ナターシャ・グジー 〈歌手・バンドゥーラ奏者〉

Profile

ウクライナ生まれ。ナターシャ6歳のとき、1986年4月26日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか3.5キロで被曝した。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住する。ウクライナの民族楽器バンドゥーラの音色に魅せられ、8歳の頃より音楽学校で専門課程に学ぶ。1996年・98年救援団体の招きで民族音楽団のメンバーとして2度来日し、全国で救援公演を行う。2000年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始。その美しく透明な水晶の歌声と哀愁を帯びたバンドゥーラの可憐な響きは、日本で多くの人々を魅了している。2005年7月、ウクライナ大統領訪日の際、首相官邸での夕食会に招待され、演奏を披露。2016年7月、これまでの活動が評価され、外務大臣表彰を受ける。コンサート、ライブ活動に加え、音楽教室、学校での国際理解教室やテレビ・ラジオなど多方面で活躍しており、その活動は教科書にも取り上げられている。
公式ホームページ：http://www.office-zirka.com/


撮影：広河 隆一

Information

♪コンサート♪

「平成28年度 外務大臣表彰　ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジーコンサート」
日時：2017年3月17日（金）開場18：00　開演18：30（120分）
出演：ナターシャ・グジー（歌・バンドゥーラ）、小関基之（ピアノ）
料金：一般2,800円　シンフォニークラブ会員2,000円
会場：かつしかシンフォニーヒルズ　アイリスホール（東京都葛飾区立石6-33-1）
お問合せ：かつしかシンフォニーヒルズ（TEL：03-5670-2233）

♪CD♪

NEW 1月4日リリース!!

「命はいつも生きようとしてる」
製品番号：POCS-1534
1,950円（税込）
小椋佳のヒット作品をカバーしたアルバム
新作「命はいつも生きようとしている」収録

「旅歌人（コブザーリ）」
製品番号：ZIRKA-1401
3,240円（税込）
来日15周年記念アルバム

沼野 充義 〈東京大学大学院教授〉

Profile

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授（スラヴ語スラヴ文学、現代文芸論）。1954年東京生まれ、1984年ハーバード大学修士、1985年東京大学大学院博士課程満期退学。ワルシャワ大学、モスクワ大学で客員講師、ハーバード大学世界文学研究所講師をつとめる。ロシア・ポーランド文学、現代文芸論専攻。主な著書『亡命文学論』（作品社、2002、サントリー学芸賞）、『ユートピア文学論』（作品社、2003、読売文学賞）、『チェーホフ　七分の絶望と三分の希望』（講談社、2015）、編書『ポケットマスターピース10　ドストエフスキー』（集英社文庫ヘリテージシリーズ、2016）、『8歳から80歳までの世界文学入門 対話で学ぶ（世界文学）連続講義4』（光文社、2016）、共編著『岩波講座 文学』全13巻＋別巻1（岩波書店、2002-2004）など。
Twitterアカウント：@MitsuNumano

第1部

1. バンドゥーラを手にすれば
2. 深い井戸
3. 眠りたくないの
4. もし刺繍ができたなら
5. 木の根
6. わがキエフ

— 休憩（10分） —

第2部

7. 広きドニエプルに吹き荒ぶ嵐　ほか
8. 旅歌人（コブザーリ）
9. 白い翼

※演奏曲目、曲順等は変更になる場合があります。ご了承ください。

Взяв би я бандуру

バンドゥーラを手にすれば
ウクライナ民謡　／　和訳 ナターシャ・グジー

Взяв би я бандуру
Та й заграв, що знав.
Через тую бандуру
Бандуристом став.

もしバンドゥーラを手にしたら
私の知っている曲を爪弾くでしょう
このバンドゥーラによって
私はバンドゥーラ弾きになるでしょう

А все через очі...
Коли б я їх мав,
За ті карі очі
Душу б я віддав.

すべては（私の見えない）瞳のせい・・・
私のものにできる（見える）なら
その茶色の瞳のために
私の魂を捧げましょう

Марусино, серце,
Пожалій мене,
Візьми моє серце,
Дай мені своє.

愛しきマルシーナ
私を憐れんでください
私の心を取り
自分の心をください

Де Крим за горами,
Де сонечко сяє,
Там моя голубка
З жалю завмирає.

山々の彼方クリミア
太陽の輝くところ
そこで私の愛しい人が
嘆きながら暮らしている

Взяв би я бандуру
Та й заграв, що знав.
Через тую бандуру
Бандуристом став.

もしバンドゥーラを手にしたら
私の知っている曲を爪弾くでしょう
このバンドゥーラによって
私はバンドゥーラ弾きになるでしょう